

ソーシャル・イノベーション

日本財団の挑戦

26

またセミの声が高く響く8月末。子どもたちの二団が溪谷での水遊びを楽しんでいる。上は中学生から下は小学校低学年まで、冷たい水も何のその。はしゃぐ様子は普通の子とも変わりはない。

水から上がった子ども一人に、医師が駆け付けた。医師は遊び疲れた子どもの顔を見ながら、かばんから手のひら大の機器を取り出した。血糖測定器だ。子どもは血糖値を確認すると、慣れた手つきで自らの腕や腹部にインスリン注射をした。彼らは小児(1型)糖尿病の子ともたちだ。

糖尿病は大きく2つの種類に分かれている。一つは生活習慣が原因とされる2型糖尿病。中高年に多い、いわゆる糖尿病の95%はこちらに分類される。もう一つは小児(1型)糖尿病。幼少期に発症することが多く、児童人口1万人当たり1-2人がかかる原因不明の難病だ。体内に栄養を運ぶインスリンと呼ばれる成分が分泌しなくな

歯科医師による社会貢献



ネーション
ド本部
小村 悠子

り、1日3-4回、自己注射によるインスリン接種を必要とする。

日本財団は、公益社団法人日本歯科医師会の協賛を得て「歯の妖精 TOOTH FAIRY」プロジェクトを実施。不要となった金歯や貴金属などをリサイクルした資金により、難病や障害と闘う子どもたちの支援を行っている。小児糖尿病の子ともたちへは、全国50カ所で開催されたキャンペーンの活動費を支援している。このキャンペーンは、小児糖尿病の子ともたちが、医師

や看護師の指導の下、インスリン注射方法や糖尿病の知識などを学び、共に病氣と闘う仲間づくりを目的としている。川遊びに疲れた子どもたちも、それぞれの活動量に応じた処置を知り、今後の生活に生かすことができるようになる。



川遊びを楽しむ子どもたち

TOOTH FAIRYの活動は寄付だけではない。合併症の一つとして歯周病リスクの高い小児糖尿病の子ともたちのために、歯科医師がボランテアで口腔ケアの指導をしている。寄付と歯科技術、両面での支援がこの活動の特徴だ。ボランテアによる支援は、地域の歯科医師と医師による連携推進など、波及効果も生み出している。

2015年度、TOOTH FAIRYプロジェクトは難病児支援に約2億円の資金を拠出した。歯科医師による社会貢献活動は、同分野において国内最大規模の支援となっており、趣旨に賛同する歯科医院も年々増加している。

プロジェクト名が由来する、抜けた乳歯をプレゼントに変えるおとぎ話TOOTH FAIRY。歯の妖精は、難病の子ともたちが毎日を笑顔で過ごせることを願っている。

川本欄は月1回掲載します。

難病に勝って...妖精の寄付